

# ハーモニー

Harmony

第85号 2021年6月20日発行

一般社団法人

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

(一社) 日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

2020年度学会事業の中間総括	2022年度「研究助成金研究」募集 …………… 5
一般社団法人化に伴う移行措置と今後の運営体制整備にむけて…1	特別企画「新・私の実践と研究」③ …………… 6
2020年度委員会活動の中間総括…………… 2	学会誌第25巻第2号の投稿募集…………… 7
第29回学術集会（オンライン学会）へのお誘い…4	理事会報告要旨…………… 7
第28回学術集会投稿奨励研究について …………… 5	事務局より・編集後記 …………… 8

### ◇◇◇ 2020年度学会事業の中間総括 ◇◇◇

#### 一般社団法人化に伴う移行措置と 今後の運営体制整備にむけて

理事長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

令和3年（2021年）も残り僅かで下半期へ折り返します。昨今の頃は移動自粛が全面解除され、国内移動が活発化する一方で第二波、第三波の発生が懸念されていました。今、新型コロナウイルス感染症への対応はワクチン接種へと向かっていますが、未だ収束の姿は見えていません。With / After コロナの取り組みは半分続きそうです。

このような中、会員の皆様におかれましてはご自身やご家族の健康管理はもとより、様々なコロナ禍対応にご尽力されていることと思います。一日も早い収束を願うとともに、皆様のご健康を心より祈念致しております。

さて、この一年の学会事業では、昨年11月6日に一般社団法人となり、本学会の歴史に大きな足跡を刻むことになりました。今後の運営に関しては、学会設立からの約30年の経験知を活かしながら、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」(略称・法人法)に則った事務処理や体制整備を行わなければなりません。

そこで、2020年度総会でご承認いただいたとおり、事業期間は2020年4月1日から2021年9月30日の一年半とし、現役員の任期も2021年度総会までとさせていただきます。つきましては、今回のハーモニーでは2020年度学会事業の中間報告と致します。

2020年度事業計画のうち、計画通りに行えなかった

項目は、「プレコングレスの開催」と「投稿奨励研究の選定」です。いずれも学術集会のオンライン開催による時間的制約や発表の視聴制約が関わっています。これら以外の「学術集会の開催」、「研究助成金研究の選定と助成」、「学会誌の発刊」、「機関紙ハーモニーの発行」、「養護教諭の倫理綱領第13条の養護実践基準の検討」、「一般社団法人の申請と定款に沿った運営体制の整備」、「理事選挙の実施と役員改選」はほぼ計画通りに進み、「養護教諭がつかさどる「養護」の学問構築にむけた検討WGの設置」については設置方法の協議を始めています。

中でも、会員の声によって取り組みをスタートしました「養護教諭の倫理綱領」第13条の養護実践基準に関する検討の経緯については2020年度報告として学会誌第24巻第2号に掲載させていただき、役員改選については代議員の互選による理事選挙が進みつつあります。さらに、HPでご報告のとおり、第29回学術集会（2021年・徳島県）もオンラインで開催することを決定しました。

また、HPでは、第28回学術集会の2日目に開催しました理事会企画の講師であった武藤義和氏の書籍『新型コロナウイルスに対する学校の感染対策』を紹介したり、本年4月24日に開催された日本学術会議の公開シンポジウム『くすりのエキスパートが語る"よくわかる新型コロナウイルスワクチン"』に寄せられた質問への回答（ワクチン接種への疑問など）を紹介したりしています。

本学会は、これからも最新の情報提供に努め、「養護教諭教育に関する研究とその発展」に取り組んでいきます。今後ともご支援の程をお願い申し上げます。

## 2020年度委員会活動の中間総括

### 1. 総務委員会

総務担当常任理事 大川尚子（京都女子大学）

#### <庶務>

理事会運営業務として、開催案内、議案整理、議事録作成を行い、新型コロナウイルス感染禍への対応としてZoomによる会議等開催の環境整備を行いました。

総会関係として、委任状の作成、議案書の作成、会計監査との連絡調整、総会議事録作成、定款作成と関係規程の一部改正等の提案を行いました。

選挙管理委員会の作業に必要な会員名簿等の提供を行い、理事会議事録はハーモニーに、総会記録は学会誌に掲載しました。

#### <会計>

会費の収支管理を行って決算報告書を監事に提出し、総会にむけては会計期間の変更に伴う移行措置として2020年度会計期間を1年半とする補正予算案を作成しました。

#### <渉外>

第28回学術集会の理事会企画にむけて感染症の専門家を探したり、学術会議等の情報をHPに掲載したりしました。

#### <事務局>

会員の入退会管理と会費の納入状況管理を行い、ハーモニーや学会誌の発送作業を行いました。

総会関係では委任状集約や資料準備を行い、法人化に伴ってHPをリニューアルしました。

#### <法人化>

一般社団法人の申請を行う一方で、定款に基づく規程等の改正案を作成し、総会で提案し承認されました。

#### ○今後の取組

- ・第1回代議員総会の開催にむけて準備をします。
- ・定款にそった諸規程の整備を進めます。
- ・会費徴収率を高めるよう努めます。
- ・各担当と密な連絡を取りながら進めていきます。
- ・養護教諭教育にかかわる情報を収集し、共有にむけてHPでの公表等を行います。

### 2. 学術委員会

学術担当常任理事 鈴木裕子（国士館大学）

#### <学術集会実行委員会への支援>

第28回学術集会古賀学会長および実行委員会と随時連絡をとり、学術集会の支援を行いました。第28回学術集会はオンライン開催となったことから、初めての試みが多く、従来のノウハウが生かせること

と生かせないことがありました。この経験を活かし、第29回学術集会の開催にむけて支援を行っています。

#### <研究助成金研究及び投稿奨励研究への支援>

2021年度研究助成金研究の申請受付および選定を行い、総会にて承認を受けました。

また、第28回学術集会一般演題の中から座長及び理事による投稿奨励研究の推薦を取りまとめました。

終了した助成金研究の研究代表者、以前の学術集会での投稿奨励研究の研究代表者と必要に応じて連絡をとり、学会誌への投稿にむけて支援を行っています。

#### <養護教諭教育に関わる学術研究の推進>

養護教諭教育の三本柱である「養護実践」・「養成教育」・「現職教育」の理念の周知と学術的な質向上を目指して設定している「一般発表の演題区分」が適切であるか、第28回学術集会にエントリーされた一般演題との照合を行いました。今後予定されている養護の学問構築にむけても活用できるような区分の検討をさらに進める予定です。

### 3. 編集委員会

編集担当常任理事 松永恵（茨城キリスト教大学）

#### <機関紙の発行>

機関紙ハーモニー第82号、83号、84号を発行しました。法人化後初の選挙となる代議員選挙の記事を掲載する一方、特別企画として会員交流②「養護教諭から養護教諭養成の立場へー伝えたい思いー」として、養護教諭を経験し養成教育に携わる会員のインタビュー対談を掲載しました。

#### <会誌の発刊>

日本養護教諭教育学会誌第24巻第1号と第2号を発刊しました。

第1号の特集には、新型コロナウイルス感染症が流行し、全国的な臨時休業が行われる中、「感染症との共生ー新型コロナウイルス感染症から子供を守るー」を企画しました。全国で奮闘する会員の力になりたいと思い、根拠を明確にした養護教諭の実践、実践の科学的根拠となる手洗いに関する知識、情報が錯綜する中で求められるヘルスリテラシー、中でも意思決定スキルの獲得に関する内容で構成しました。

第2号では初めてのオンライン開催とした第28回学術集会（古賀由紀子学会長、於九州看護福祉大学発信（熊本県玉名市））の内容を報告しました。「学校保健活動推進の中核的役割を担う養護教諭の力量形成ー養成、採用、研修を通してー」をテーマに、学会長講演、特別講演、シンポジウム、熊本地震の経験とその後、課題別セッションについてご報告いただきました。

投稿論文は各号3本、計6本掲載しました。コロナ禍にもかかわらず修正に取り組みられています多くの著者の皆様に敬意を表します。

会議や編集の方法も新しい様式への変化を余儀なくされました。オンラインが中心となり、これまで以上にメールや電話を多用した密な連携が必要になりました。一方、オンラインで交通費が不要になり、関東地方から北海道の小委員会に参加することができました。

本年度は投稿論文が増え、会員の熱い思いに触れています。また、多くの会員に査読を引き受けていただきました。的確なご指摘や伴走して下さるご姿勢に感謝しております。誤解を招く表現がある場合には修正をお願いしていますが、査読者の方には快く応じていただき、重ねて感謝申し上げます。さらに査読中に編集委員会からもコメントさせていただくことで、掲載決定後の作業が円滑に行われるようになりました。

#### 4. 学会活動委員会

学会活動担当常任理事 小林央美 (弘前大学)

第28回学術集会の「理事会企画：新型コロナウイルス感染症対応の中で養護教諭として何を大切にされたか」をテーマとした課題別セッションの運営を担当しました。詳細は学会誌第24巻第2号に掲載していますが、ここに概要を紹介します。

養護教諭の方々には、理事会の意向として、「新型コロナウイルス感染症（以下、コロナと記す）への対応の中で見えてきたこと、あるいは、問われていると感じたことを振り返る中で、養護教諭が大切にしてきた視点や考え方、専門性について」のご提言をお願いします。

その主な内容は、「10年前に経験した新型インフルエンザ蔓延時の対応経験が活かした。それは、単に経験を追従するのではなく、経験や実践を検証し省察を重ね、再び実践に活かしていくという「経験知」であるからこそ活かした。経験するだけでは専門力向上にはつながらず、経験から学んだことを言語化し経験知として蓄積し、それをさらに養護教諭間で共有していくことが重要である。」「発想の起点を学校の教育活動と捉え、具体的な予防対策の確立のために、根拠を示すこと・より効果的で持続できる方法を工夫すること・組織的な校内協働体制の確立が必要で、とりわけ、子どもたちの自己実現を支援する立場であることを重視した。」ということだった。また、「コロナに関するエビデンスが少ないため、養護教諭同士が知恵や工夫を学び合う必要性を強く感じ、養護教諭で組織した「実践

コミュニティ」で情報交換を進め、その中で「実践の工夫や知恵の共有」「地域の情報の共有」「自己の専門的力量、強みや弱みへの気づき」につなげるということを考えて。それはベテランと経験の浅い養護教諭が実践を言語化することで共に学び合う「相互育成」であった。」「養護教諭として学校運営に参画することが重要であることを再確認した。」ということなどが提言されました。

公立陶生病院感染症内科主任部長の武藤義和先生からは、「コロナに対する考えの柱は、重症者の救命、軽症者の集中による集団発生の防止、医療者・感染者への誹謗中傷の防止であり、その実現のためには、①正しい情報源からの情報収集、②正しい感染症対策、③正しい情報の共有が必要だ。」ということ、「この感染症への対応は子どもたちにとっても大変重要な経験であり、氾濫する情報に惑わされず正しい行動と理解を持つこと、偏見や差別等の目を持たず協力して感染症と立ち向かうことを今、学校が正しく教え導き、10年後、20年後にまた大きなアウトブレイクがあったときに混乱を繰り返さぬよう、学校だからこそできる教育をすることが重要である。」というご助言をいただきました。多くのご参加をいただき、学びを深める機会となりました。

#### 5. 選挙管理委員会

委員長 石田妙美 (東海学園大学)

昨年より、本学会が一般社団法人となって初めてとなる「代議員選挙」及び「理事候補者選挙」を進めています。

新型コロナウイルス感染症禍での作業であるため、近畿ブロックの菊池委員と高田委員にはオンラインでご出席いただき、中部ブロックの森委員には大学においていただいています。

代議員選挙は2021年1月30日に有権者に関係書類を発送し、2月1日から2月18日の期間で投票を受け付けました。開票作業後、3月6日から代議員就任可否を書面によって確認しましたが、年度末や春休みで連絡が付きにくく、予定より時間を要してしまいました。連休明けとなる5月6日に全員の承諾書が揃い、理事会では代議員総会の日程が決まりつつあるとのことですので、まもなく、各ブロックの理事候補者を代議員の互選で選出していただく手続きを進めます。

なお、理事は代議員総会で承認されることとなりますので、それまでは候補者です。後日、代議員と理事候補者をご報告させていただきます。

## 第29回学術集会（オンライン学会） へのお誘い

学会長 貴志知恵子（徳島文理大学）

会員の皆様におかれましては、子ども達の健康を守り育てる活動に日々ご尽力されていることと拝察致します。現在、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発動されている地域があり今後も予断を許さない状況が続いております。このような中、第29回学術集会はWebによるオンライン学会とすることに致しました。

今回のメインテーマは「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」としました。

混沌とした先の見えない状況の中で、子ども達が生涯にわたって健康・安全に生きていくためには、自ら率先して行動することや仲間と協力して課題解決していくことが強く求められます。そのために子ども達は、主体性や探究心を持つことが不可欠であると考えます。そこで、本学術集会においては、養護教諭の職務において子どもの主体性・探究心を育てる養護実践をどのように考え、どのように行うかについて議論し、その可能性を探ることで、全ての子ども達の健康レベルの向上を目指します。

特別講演は、歯周病予防に熱心に取り組まれている歯科医の篠原啓之氏より、歯科保健と全身の健康との関係を熱く語っていただきます。

教育講演は、これまで、学校における子どもの適応と健康を守る予防教育開発や介入研究を全国的に行われている鳴門教育大学の山崎勝之氏にお願いします。

### 1. 期 日

2021年11月27日（土）12:00～17:00

11月28日（日）9:30～15:50

### 2. 開催形態

Webによるオンライン（於 徳島文理大学発信）

### 3. 学会長

貴志知恵子（徳島文理大学人間生活学部）

副学会長：竹内理恵（同大学同学部）

### 4. メインテーマ

「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」

### 5. 内 容

【11月27日（土）】

◇開会行事（12:00）理事長挨拶・学会長挨拶

◇学会長講演 貴志知恵子（徳島文理大学）

◇特別講演（13:10-14:10）

「歯周病が全身に及ぼす影響～デンタルクリニックの報告から～」

篠原啓之（エス・デンタルクリニック 歯科医師）

◇シンポジウム（14:30-17:00）

「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」

コーディネーター 入駒一美（東京医療保健大学）

松永恵（茨城キリスト教大学）

シンポジスト 住吉美保（一関市立桜町中学校）

近藤真理（徳島市立高等学校）

古角好美（元大和大学）

【11月28日（日）】

◇一般口演発表（9:30-11:30）

◇研究助成金研究発表（11:30-12:00）

◇教育講演（13:00-14:00）

「健康と適応を守る予防教育の理論と進め方」

山崎勝之（鳴門教育大学特命教授）

◇課題別分科会（14:20-15:50）

分科会1「問題＝チャンスにして自分で解決できる力を身につける保健指導」

藤井梓（徳島科学技術高等学校）

分科会2「学校で使える解決志向アプローチ」

猪井淑子（徳島文理中学・高等学校SC）

分科会3「外在化療法を活用した絵本の作成とその活用」

中津達雄（徳島文理大学大学院教授、臨床心理士・

公認心理師）

木下梓（徳島県阿南市立伊島小学校）

### 6. 一般演題の募集

1) 口演発表演題申込締切：7月15日（木）必着

2) 抄録原稿締切：8月15日（日）必着

3) 送付先：日本養護教諭教育学会第29回学術集会事務局 E-mail：yogo2021@tk.s.bunri-u.ac.jp

### 7. 参加費

会員・会員外 2,500円

学生（社会人大学院生を除く）2,000円

（11月15日迄の事前申込者に限る）

抄録集のみ 2,500円（送料込み）

【参加申込フォーム】

<https://forms.gle/UXMYMw2MGk7sW8bj9>

右のQRコードからも参加申込できます

詳細は、学会HPに掲載



## 第28回学術集会投稿奨励研究について

学術担当常任理事 鈴木裕子 (国士館大学)

投稿奨励研究とは、学術集会における一般演題の中から理事会の選定により学会誌への投稿を奨励する研究です。特に現職養護教諭による研究の推進を目指して設けた制度で、学術集会終了後、学会長、座長及び理事からの推薦を受け、毎年2題以内を選定しています。論文を投稿する際には査読料8,000円が免除される特典があります。昨年度の学会誌第24巻第1号には、調査報告として「教育学部養護教諭養成課程に在籍する学生の養護教諭志向に関する意識変容プロセス」(著者 今優佳・工藤宣子会員)が掲載される等、これまで多数の投稿奨励研究が論文化されてきました。

2020年度の第28回学術集会では、オンラインで一般演題として20演題の口演が行われました。その中から古賀学会長はじめ座長の皆様等に推薦を挙げていただき選定の検討を行いました。しかし残念なことに、今回は投稿奨励を行うことができませんでした。推薦の票が割れてしまい、特定の演題に絞り込むことができなかつたためです。原因として、オンライン開催では対面での開催に比べて複数の会場の発表を聞くことが難しかったことが考えられます。オンラインでも会場移動は可能ですが、タイミングがつかみにくく、結果的にひとつの会場の発表しか聞けなかつた人が多かつたようです。今後の課題として検討したいところです。

今年の第29回学術集会もオンライン開催となりますが、養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に関する多数の研究結果をご発表いただき投稿奨励を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願い致します。

## 2022年度「研究助成金研究」募集

学術担当常任理事 鈴木裕子 (国士館大学)

本学会では会員の特徴ある研究に対して、一件10万円を助成しています(年間2件以内)。2021年度は「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援—新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに—」(研究代表者 坂井三代子会員)に対して助成を行っています。昨年度は学会誌第24巻第2号に、過年度の助成金対象研究「養護教諭養成教育における『養護の本質』を理解するための教育

プログラムの実践の試み」(研究代表者 鹿野裕美会員)を研究報告として掲載することができました。また第28回学術集会においては2019年度対象研究「くびきの式事例検討法の有用性と課題」(研究代表者 角田智恵美会員)の成果を口頭発表していただきました。

このたび来年度(2022年度)の助成金を希望する研究の申請受付を開始します。以下のスケジュールで決定し、来年度4月から1年間を研究機関とします。

- ・申請締め切り 2021年9月10日(必着)
- ・10月の理事会で候補を選定
- ・代議員総会にて承認を受け決定

助成を受けた研究は、研究内容をハーモニーで紹介いただくほか、翌年の学術集会にて研究成果を発表し、助成期間終了後1年以内をめどに日本養護教諭教育学会誌に投稿していただきます。申請できるのは共同研究者ともに会員に限ります。選定に関する内規等は学会誌第24巻第2号p.105に掲載しています。

申請希望者は学会ホームページから申請書をダウンロードして研究計画等を記入し、下記の学術担当常任理事までメール添付で送信してください。

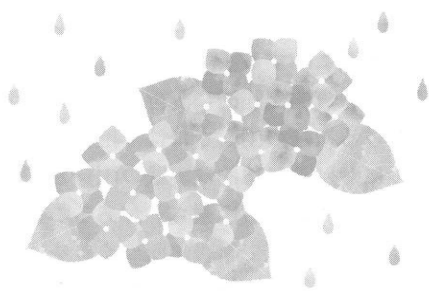
この制度は、本学会設立当初の学会共同研究を2007年度に助成金研究と改めて開始してから15年となります。その間、現職養護教諭による研究を含め多様な研究が行われ、その成果が学会誌に掲載されてきました。今後も養護教諭教育(養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動)に関する研究の発展のために、是非、積極的なご応募をしていただけますようご検討をお願い致します。

<申請先>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

E-mail [suzukiyu@kokushikan.ac.jp](mailto:suzukiyu@kokushikan.ac.jp)

学術担当常任理事 鈴木裕子 (国士館大学)



学級集団づくりの促進を目指した担任支援

吉兼千尋（大阪府公立小学校養護教諭）

養護教諭として勤務して今年で9年目になります。初任校は複数配置だったため、もう一人の養護教諭の先生から、救急処置、健康診断、健康相談、保健室経営の方法や学校内での連携の仕方など、学校現場での養護教諭の職務内容の実際を一から教えていただきながら勤めました。

次に異動となった現任校は、養護教諭が一人配置でした。すべて自分自身で行う保健室経営となり、不安が多かった中、日々の仕事に追われながらも子どもたちとの関わりを深めていきました。現任校に勤務してから数年が経ち仕事に慣れてくると、教室に入りやすい子ども、友だちとのトラブルが多い子ども、授業に参加しにくい子ども等、学級集団の中に馴染みにくい子どもたちの様子を、課題を感じるようになりました。そして、そんな課題を抱える子どもたちが複数いる学級経営に日々奮闘する担任の先生方の姿に、養護教諭としての気づきを感じるようになりました。私は、様々な課題を抱える子どもたちを養護教諭としてどう見立てればよいのか、子どもたちに必要な支援は何か、担任の力になれることは何かと考えるようになりましたが、自分の知識や経験不足から、なかなか子どもたちや担任への支援につながらないと感じました。そこで、教職大学院に進学し、私が養護教諭として取り組みたいことを整理した上で、学級集団づくりを理念とする現任校の教育活動にそった「学級集団づくりの促進を目指した担任支援」というテーマで研究的な側面からも養護実践を深めることにしました。

養護教諭が行う担任支援に関する理論と実践の往還により学んだことは、大きく3点です。

1点目は、担任支援には学問的な根拠があるということです。養護教諭の学問には、子どもたちが安心できる環境をつくる教育職員に働きかけることも養護の仕事である、と考えられています。そして、養護教諭の倫理綱領第6条に「教職員を支援する」とあります。私の取り組みたい担任支援は、学問的な根拠があると知り、養護実践の自信をもつことができました。

2点目は、実際に担任を対象に学級集団づくりにおける困難感に関するインタビュー調査を行い、得られたデータを質的記述的に分析した結果、学級集団づくりにおける担任の困難さには「担任が目指す学級集団づくりにおける具体的な実践の困難さ」と「担任が自らの力量に直面する困難さ」があることが示唆されました。今回の研究で学級集団づくりを理念とする現任校において、その困難さの本質から担任支援の意義を

学ぶことができました。

3点目は、担任支援の実践事例をプロセスレコードに書き起こし、どのような担任支援があったのかを考察したことで5つの担任支援があったことがわかりました。

- ①担任と養護教諭でそれぞれ把握している児童の家庭や学級での様子、児童に対する考えを共有する。
- ②SCや医療機関と連携することが必要と考え、SCへの連絡調整を申し出る。
- ③健康相談や教育相談をする・保健室での休養を促すという児童への直接的な支援を提案する。
- ④担任の話を受容的に聞き、共感する。
- ⑤担任の児童理解や思いを積極的に尋ねる。

これらの示唆から、自ら養護実践を詳細に省察する方法を身に付けることは、日々の実践を深めることを学びました。

私は、担任支援という養護実践を通して、自分の未熟さを感じつつも、教職大学院で学修したことも教職としての貴重な経験になりました。学びや経験は、今後も学級集団づくりの促進を目指した担任支援の推進に活かされていくと思っています。学び続け、実践を振り返り、深めていけるような養護教諭でありたいと思います。

【寄稿】 継続的な実践研究を

藤嶋祥子（奈良県公立中学校養護教諭）

吉兼先生とは教職大学院で理論と実践の往還の実現に向けて、一緒に取り組んできました。当初からきちんと目的をもっておられたと思いますが、それらを整理された上で担任支援というテーマに辿り着かれました。あまり聞きなれない言葉だったのですが、普段の担任との連携という実践の中にも担任支援があり、大切なことであると共感しました。

現職教員として、毎日子どもたちとの関わりがあるからこそ、実践研究が進められると感じています。大学院生として互いの実践を報告し、検討することもありました。吉兼先生から子どもとのエピソードを教えていただくと、悩みながらも日々、真摯に丁寧に子どもたちや先生方に向き合う姿が目に見え、こんな養護教諭に出会えた子どもたちは幸せだなと思ったものです。私自身の子どもの関わりを反省すると共に、多くの学びをいただくことができました。ありがとうございました。

吉兼先生の実践が多くの方に伝われば嬉しいと思います。これからも、養護教諭として実践研究を進めていきたいと思います。

## 学会誌第25巻第2号の投稿募集

編集委員 青柳千春(高崎健康福祉大学)

本学会誌は、「養護教諭の資質や力量の形成及び向上」に寄与することを目的に、1年間に2回(9月末及び3月末)発刊されています。本学会誌は、会員の皆様の投稿論文で成り立っています。是非、皆様の日々の実践や思いを「研究」という視点でまとめ、投稿していただきますようお願い致します。

さて、昨年3月、政府の要請により全国の一斉臨時休業が行われ、多くの学校は5月末まで臨時休業を経験しました。昨今の頃は「100年に一度の状況」といわれる中、学校再開を迎え、よく正体がわからない感染症「COVID-19」から子どもたちの健康を守るために、養護教諭は奮闘していました。その後も、「子どもたちの学び」を保障するため、学校における感染及びその拡大のリスクを低減させるために「何ができるのか」「何をすべきなのか」を問い続け、実践を重ねています。

令和3年4月30日現在、我が国において新型コロナウイルス感染症と診断された方は全人口の約0.5%に相当する586,782人であると政府は発表しています。

ようやく国内でのワクチン接種も始まり、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置実施の効果と相まって、新規感染者数の抑え込みが図られることを願うばかりですが、変異株の発生も見られ、まだまだ緊張の日々は続きそうです。

これまでの養護教諭の歴史を振り返ると、その職務は、「トラコーマ対策」「結核等の伝染病対策」「生活習慣病予防」「心のケア」と子どもたちの健康問題の変化に柔軟に対応しながら変化してきました。新型コロナウイルス感染症への対応も過去のものとなる日が遠くないことを期待しています。

しかし、人の記憶は時間の経過とともに薄れるものです。だからこそ、withコロナ期に行った養護教諭の活動を記録として残すことが重要ではないかと考えます。

「子どもたちのために」工夫し活動を続ける養護教諭の先生方の実践を、是非記録に残してください。そして、その記録を客観的に問い直すことで、「どのように変容したのか」「どのような支援が有効であったのか」が明らかとなり、課題を整理することができま

す。その成果を論文としてまとめ投稿してください。査読の結果、時には厳しいコメントがつくこともあるかもしれませんが、投稿していただいた論文が掲載され、多くの養護教諭の共有財産としていただけるよう編集委員会も努力をしています。是非、ご理解の上、皆様のご協力をお願い致します。

## 理事会報告要旨 (2020年度第3回・第4回)

総務担当常任理事 大川尚子(京都女子大学)

2020年度第3回会理事会

1. 日時 2020年10月4日(日) 9:00～12:00
2. 方法 オンライン会議
3. 出席者 後藤、今富、大川、加藤、河田、古賀、小林、鈴木、塚原、松永、圓岡、三木、岩崎(監事)、大野(監事)、稲垣(幹事:記録)、欠席:上村、平井

### 4. 議事

#### 【確認事項】

- ・2020年度第1回、第2回議事録(案)を確認

#### 【審議事項】

- 1) 2019年度会計監査報告について
- 2) 2020年度会計について
- 3) 定款に基づく規定等の改正案について
- 4) 2021年度研究助成金対象研究の選定について
- 5) 「養護」の学問構築検討WG(仮称)について
- 6) 2020年度総会議案における事業報告・事業計画報告について
- 7) 選挙スケジュールについて
- 8) 2022年度(第30回)学術集会の開催地について

#### 【報告事項】

- 1) 2020年度総会の運営及び第28回学術集会の状況について
- 2) 学会事業報告「養護実践基準の検討」について
- 3) 課題別セッション4について
- 4) 2019年度活動経過報告/総務、学会活動、学術、編集
- 5) 法人化の手続きについて
- 6) 第29回学術集会の進捗状況

2020年度第4回会理事会

1. 日時 2020年11月29日(日) 10:00～12:00
2. 方法 オンライン開催

3. 出席者 後藤、今富、大川、加藤、上村、河田、古賀、小林、鈴木、塚原、松永、圓岡、三木、幹事：稲垣（記録）、欠席：平井

【確認事項】

- ・2020年度第1回から3回までの理事会議事録（案）を確認

【審議事項】

- 1) 2020年度総会の議事要旨の確認
- 2) 次期学術集会への申し送り事項
- 3) 養護実践基準オンラインミーティングについて

【報告事項】

- 1) 第28回学術集会の総括
- 2) 2020年度委員会活動経過報告／総務、学会活動、学術、編集
- 3) 法人化について
- 4) 代議員選挙について
- 5) 第29回学術集会の進捗状況



## 事務局より

事務局長 圓岡和子（愛知教育大学附属高等学校）

○住所変更等の届について

勤務先等が変わった方は、E-mailまたはFAXにて事務局までお知らせください。

郵便局に届を出されても、発送にヤマト運輸のDM便を利用した場合は転送されません。皆様のお手元にスムーズに届くよう、ご協力をお願い致します。

○会費の納入について

年会費が2年分滞った場合、入金が確認できるまで学会誌等の発送を見合わせています。また、退会届は滞納分の会費を全額お支払いいただくことで受理されますので、ご注意ください。

○『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞』について

1冊500円（送料別）で販売しています。ただし、10冊以上まとめてご注文いただきますと送料無料でお送り致します。会員外の方にも是非お勧めください。

○会員へのお誘い

周りの方で養護教諭の資質能力向上に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非、本会へのご入会をお勧めください。

何かお気づきの点がありましたら、E-mailもしくはFAXにてお知らせください。

<学会事務局>

E-mail JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

TEL&FAX 0566-26-2491

## 編集後記

ハーモニー第85号をお届け致します。今号は、第29回学術集会の詳細な案内を掲載しています。学術集会事務局では、QRコードで参加申込フォームにアクセスできるようご準備いただいております。ハーモニーと同封のポスターや振込用紙も、是非、ご確認ください。

本学会が一般社団法人となり、初めての代議員総会を迎える準備が進んでおります。まだまだ学会組織及び運営の過渡期にありますが、会員の皆様の声を紡ぎ奏でる「ハーモニー」でありたいと願っています。

（平井美幸）